

第2回 那賀川水系 流域委員会

説明資料 (流域及び河川の現状と課題)

令和6年2月6日

静岡県下田土木事務所

目次

1. 河川法と河川整備計画について
2. 流域及び河川の概要について
3. 流域及び河川の課題の整理
(河川整備計画の検討に向けた着眼点)

1. 河川法と河川整備計画について

河川法改正の概要と流れ



河川法：公共のものである河川について、その管理、河川工事（改修や維持修繕）、その他の河川に関わる様々な事項を定めた法律

河川計画の制度

河川整備基本方針 (平成28年6月策定済)

水系一貫した長期的な河川のあり方(方針)

河川法第16条

内容 → 基本方針(理念)、基本高水や計画高水流量(洪水処理の規模や方法)等

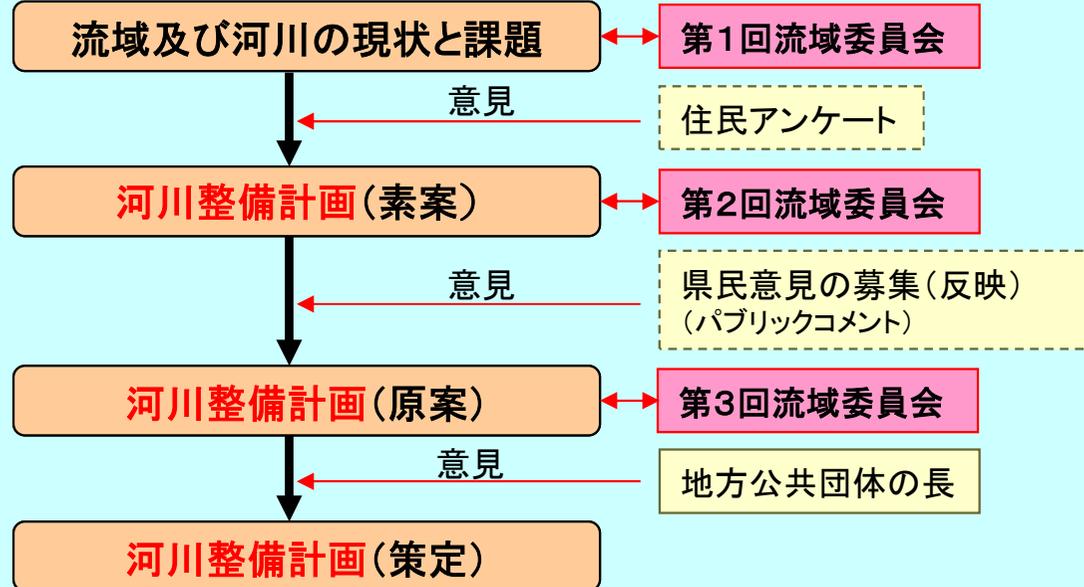
河川整備計画: 検討中

河川法第16条の2

概ね20~30年間の河川の整備内容(計画)

内容 → 河川整備の目標、河川工事、河川の維持の内容

手続



河川工事、河川の維持

河川整備計画の流れ

本委員会では、河川整備の目標および実施に関する事項を整理し、整備計画(原案)について検討します。

河川整備計画 検討

流域委員会

1. 流域及び河川の概要

2. 流域及び河川の現状と課題

3. 河川整備の目標に関する事項

4. 河川整備の実施に関する事項

第1回流域委員会
令和3年1月26日開催

第2回流域委員会
令和6年2月6日開催

河川整備計画(原案)

第3回流域委員会以降

河川整備計画(案)

2. 流域及び河川の概要について

流域の河川の概要について

まず、7つの視点から「流域及び河川の現状」を捉えていきます。

流域の概要

2.1 流域及び河川の概要

2.2 地形・地質・気候

2.3 人口・産業・交通・土地利用

2.4 流域の歴史・文化

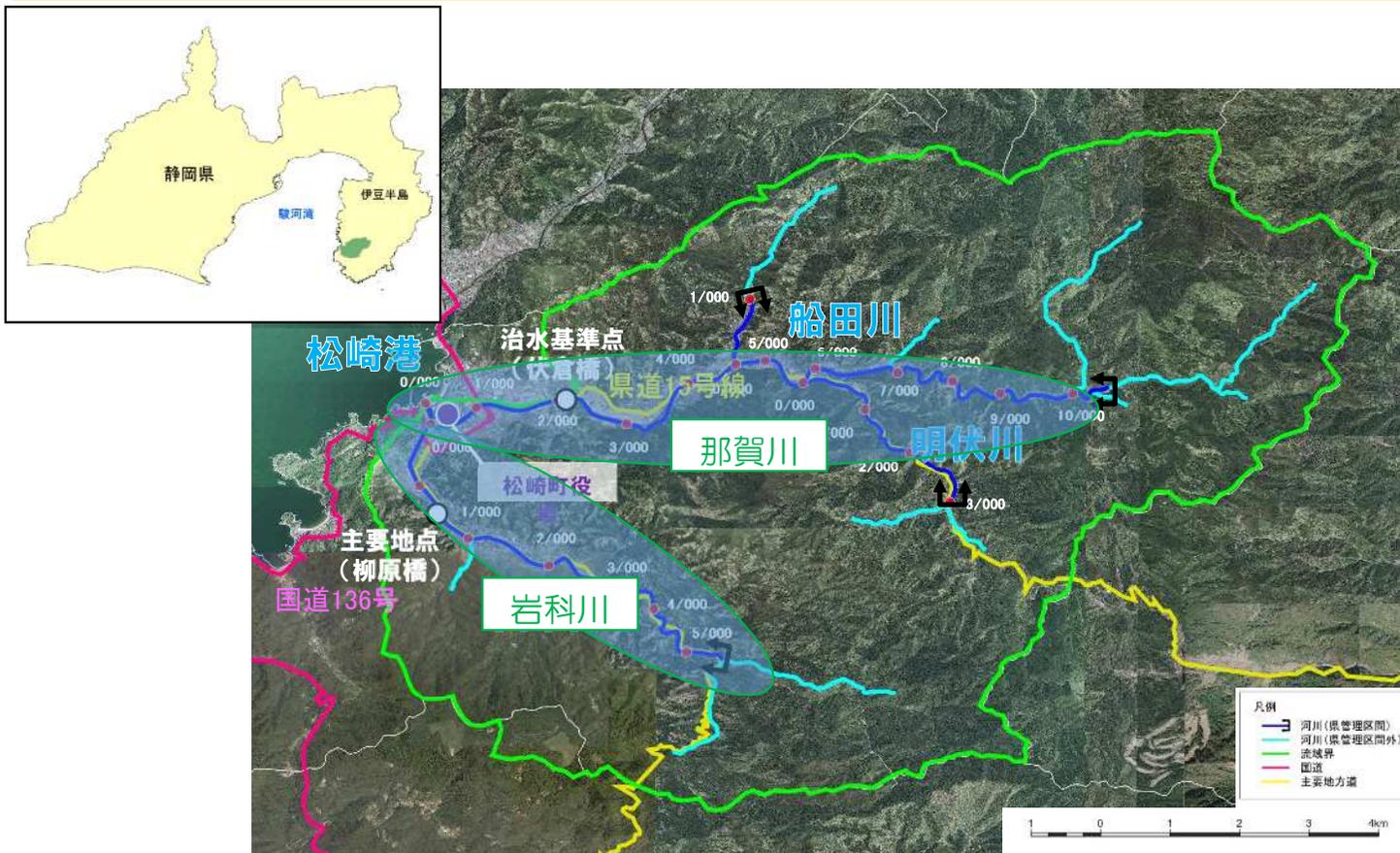
2.5 治水事業の取組み

2.6 河川利用、地域との関わり

2.7 河川環境

2.1 流域及び河川の概要

なかがわ なかがわ いわしながわ ふなたがわ あけぶしがわ
 「那賀川水系」は、「那賀川」、「岩科川」、「船田川」、「明伏川」を対象とします。那賀川流域は松崎町の面積の約85%を占め、地域住人の生活と密接な関わりを持つ「ふるさとの川」であるとともに、西伊豆を代表する観光地を流れる河川として下流域の歴史的まちなみや中流域の沿川に連なる桜並木、周辺の田園風景と調和し、訪れる人にも親しまれています。



【流域の諸元】

《那賀川水系》

流域面積 72.6km²

河川延長

・那賀川 10.6km

・岩科川 6.4km

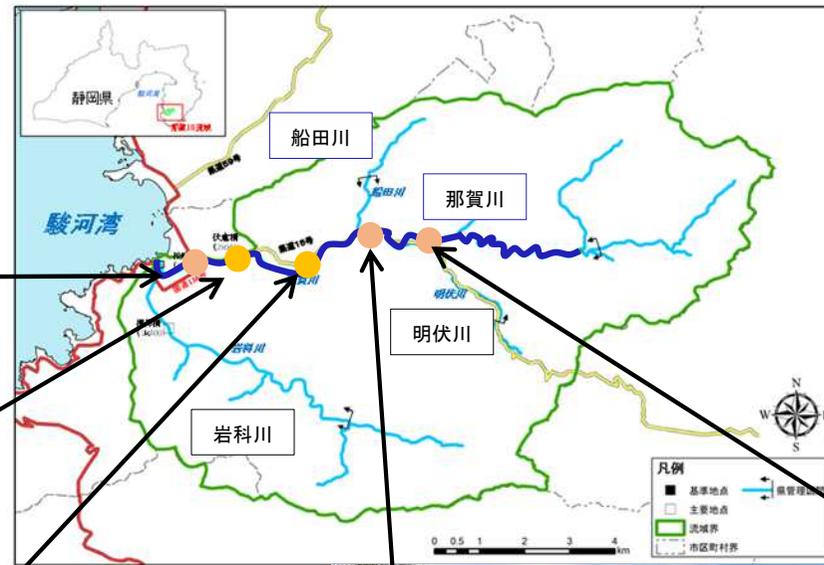
・船田川 1.1km

・明伏川 3.1km

流域内人口 約6,800人

2.1 流域及び河川の概要 ～那賀川～

那賀川は、^{いのうざわがわ}稲生沢川流域及び^{かわづがわ}河津川流域との^{ぶんすいれい}分水嶺である^{おおなべごえ}大鍋越に源を発し、^{あけぶしがわ}明伏川、^{ふなたがわ}船田川を合流しながら松崎町をほぼ真西に貫き、町の中心部を貫流した後、^{いわしながわ}岩科川を合流して松崎港へ流入しています。また、河道状況は河床勾配、河川環境が下流から上流で大きく変化します。



1.0k付近河道状況
 後背地は松崎町の中心的な市街地が広がる



1.6k付近河道状況
 伏倉橋付近。低水管理の代表地点。



3.7k付近河道状況
 後背地は水田としての利用が多い。



4.8k付近河道状況
 後背地は水田としての利用が多い。



6.6k付近の河道状況
 後背地は急勾配となり、山間部を流れる。流域の主要な観光地である大沢温泉、道の駅が存在する。

2.1 流域及び河川の概要 ～岩科川～

岩科川は、河川延長約6.4kmで那賀川の河口部で合流する左支川です。

地域には「洗垢離^{せんごり}」や「盆送り^{ぼんおく}」など、川にまつわる伝統行事が残されています。

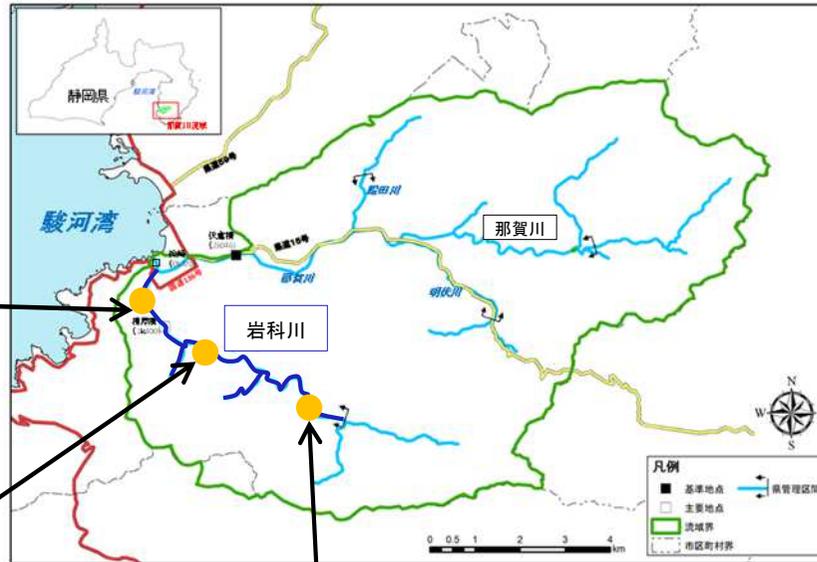


0.8k付近の河道状況
 後背地は水田地帯。

0.55k付近は下流部は後背地に家屋
 が隣接する。



2.8k付近の河道状況
 後背地は水田地帯。



5.4k付近の河道状況
 上流部は急流となる。



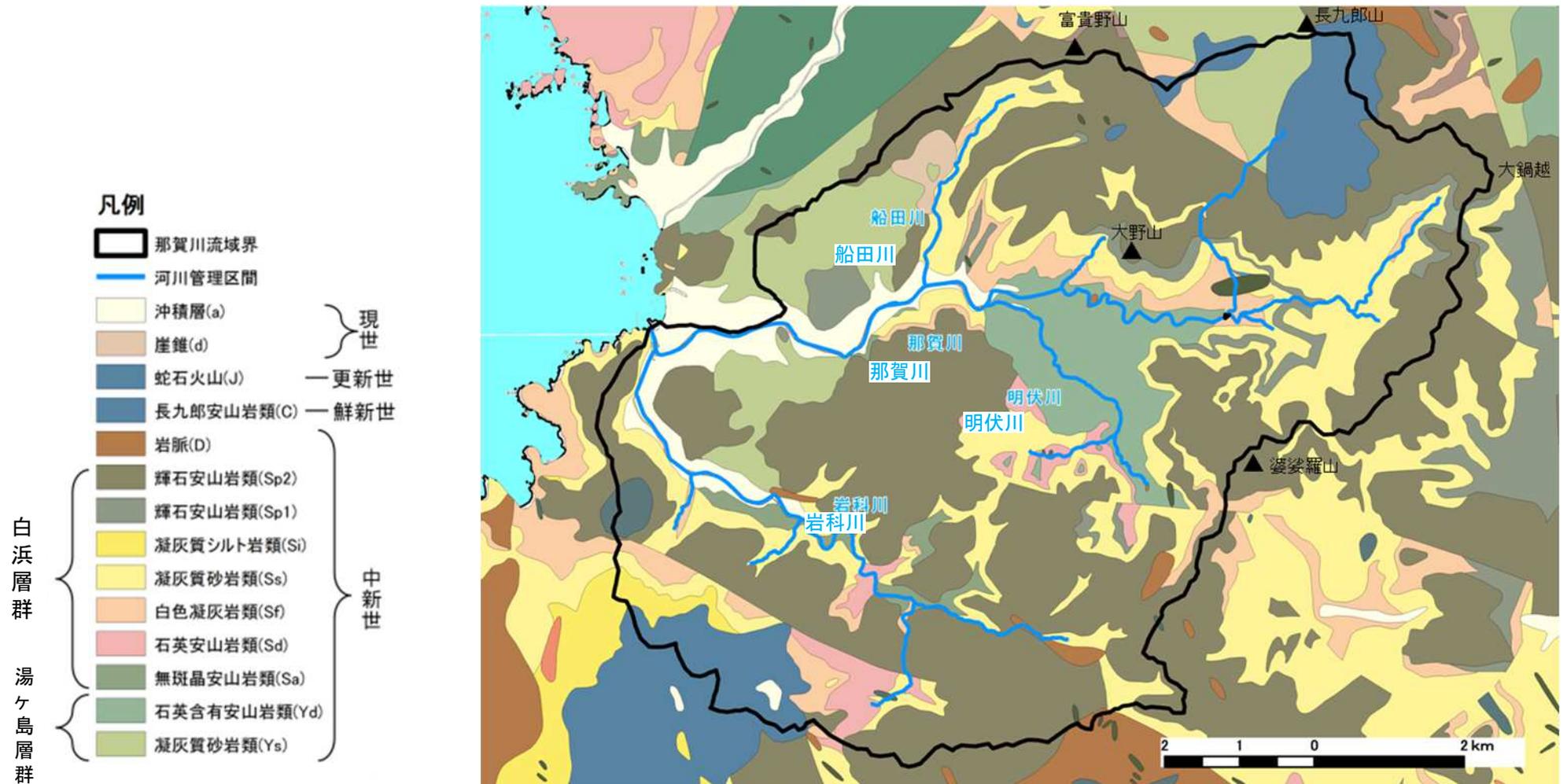
洗垢離(せんごり)



盆送り

2.2 地形・地質・気候 -地形・地質-

流域の大部分を占める山地は白浜層群等の火山性堆積物からなり、起伏に富んでいます。中下流部には砂礫等の堆積物で覆われる谷底平野、河口付近には砂で被覆された浜堤が形成されています。



出典：1/50,000地質図幅(地質調査総合センター)

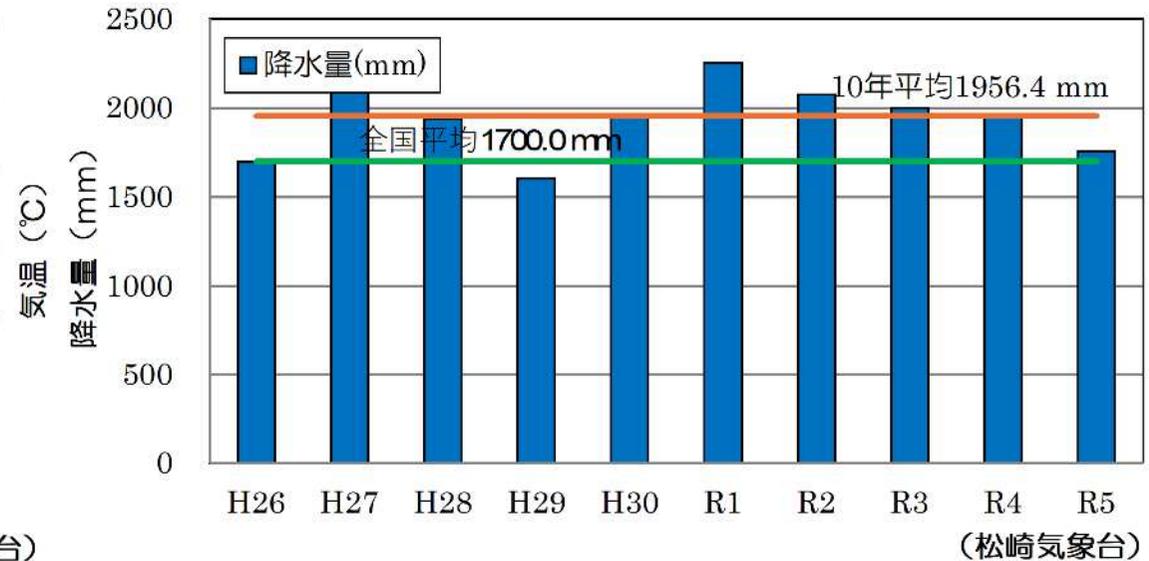
2.2 地形・地質・気候 ～気候～

流域の気候は、年平均気温が17.1℃(気象庁松崎観測所平成26年～令和5年)で、1月の平均気温は約7.5℃であり、県内でも温暖な地域です。
年間降水量は、平均降水量で1,956.4mm(気象庁松崎観測所平成26年～令和5年)であり、全国平均の約1,700mmを上回ります。

月別平均降水量・気温 (H26～R5)



年別降水量 (H26～R5)

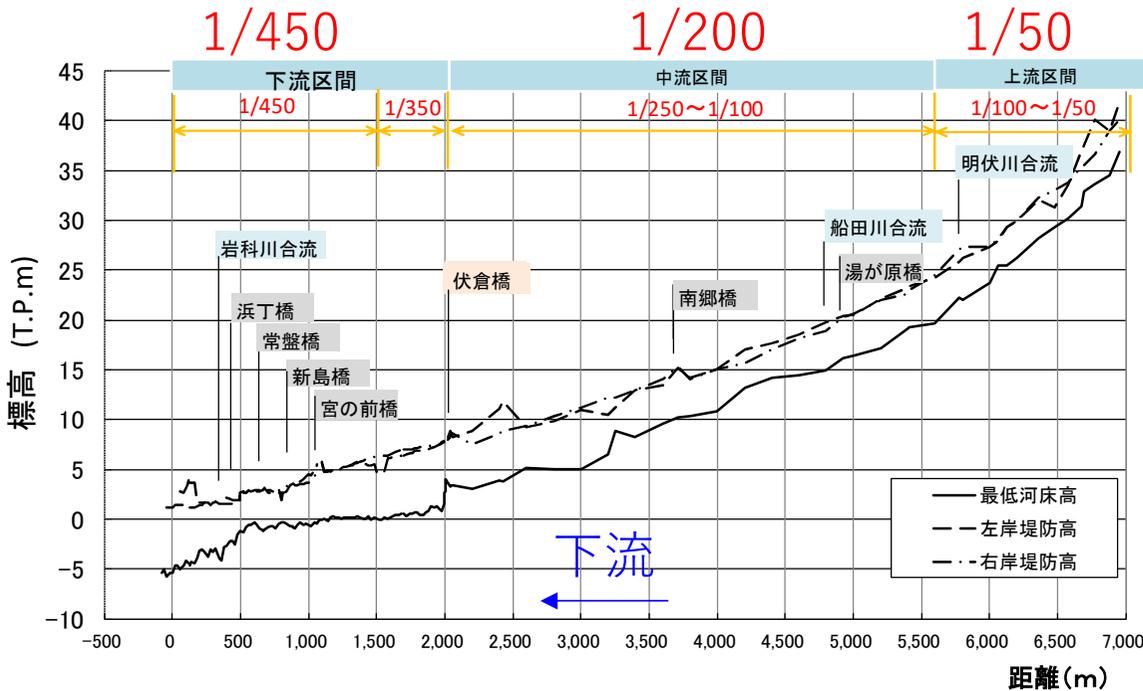


2.2 地形・地質・気候 ～河川の勾配～

那賀川: 下流部の河床勾配は緩やかですが、中流部では1/200前後、上流部は急流で大部分が山付き区間となっています。

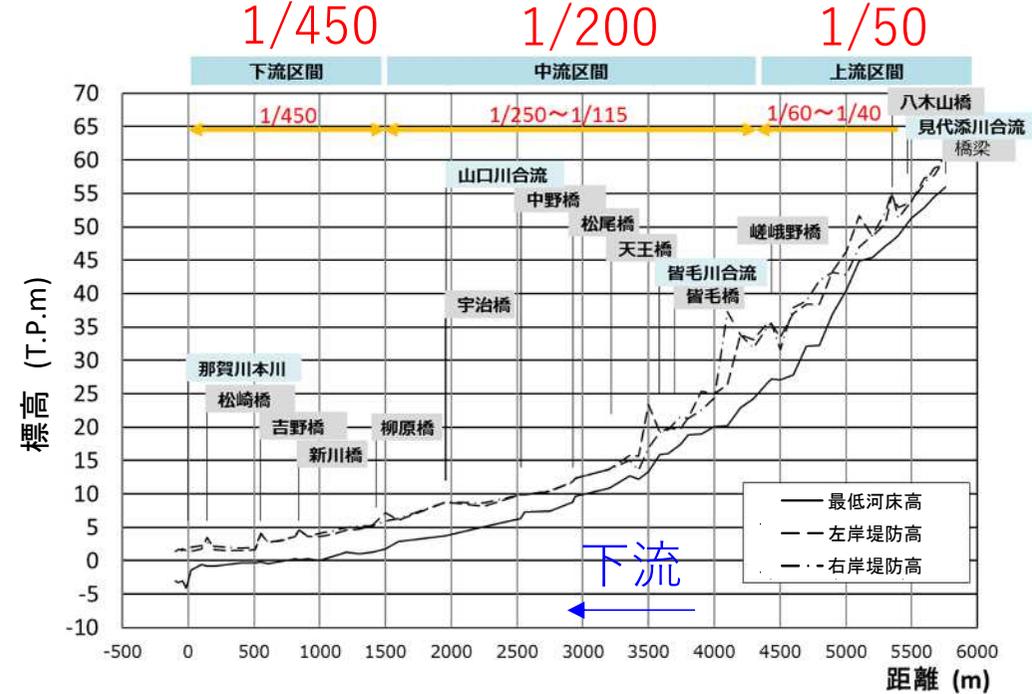
岩科川: 下流部の河床勾配は緩やかですが、中流部では1/200前後、上流部は1/60～1/40の急流となっています。

<那賀川>



那賀川の河川縦断勾配

<岩科川>



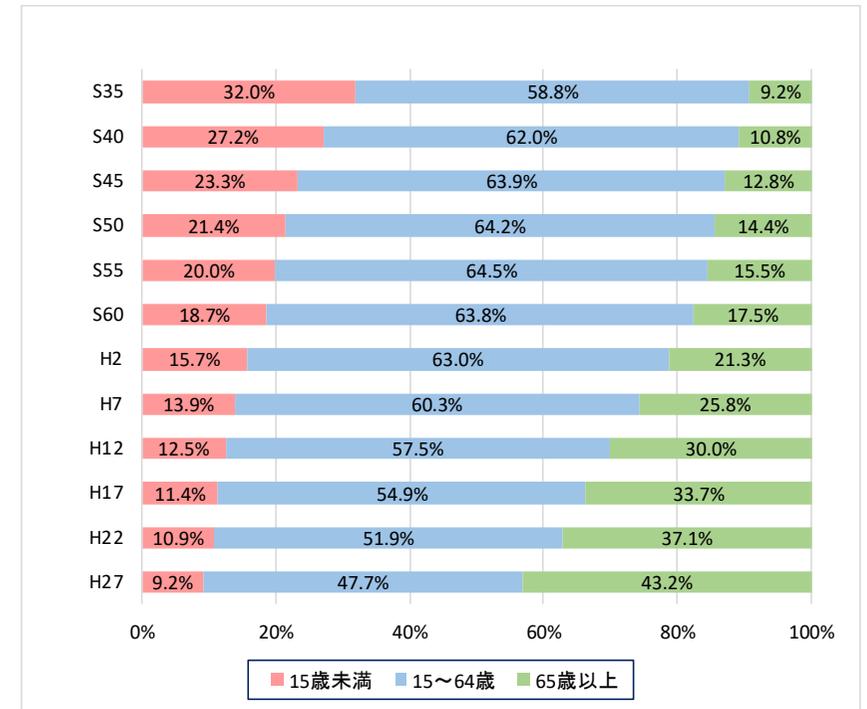
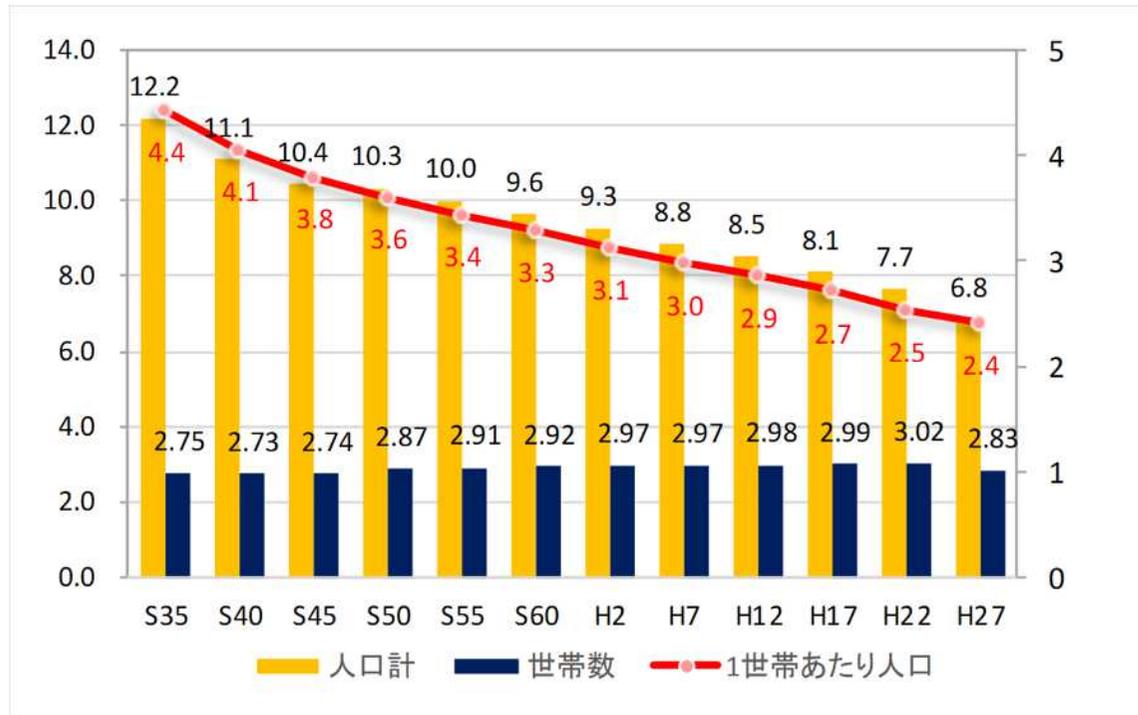
岩科川の河川縦断勾配

2.3 人口・産業・交通・土地利用 ～人口・世帯数～

那賀川流域を含む松崎町の人口は昭和35年頃をピークに減少し、平成27年では約6,800人となっています。世帯数は昭和35年以降横ばいで、核家族化が進行している状況です。年齢別人口の推移では、15歳未満の年少人口の割合が減少傾向、65歳以上の老年人口の割合が増加傾向を示し、少子高齢化が進んでおり、災害時避難弱者の割合が増加しています。

人口・世帯数
(千人・世帯)

1世帯あたり人口(人)



※R5.12.1時点(静岡県人口推計調査)では、人口 5.5千人、世帯数 2.6千世帯

出典:国勢調査(S35～H27)

2.3 人口・産業・交通・土地利用 ～産業～

河口域で行われる川のり(主にヒラアオノリ、ボウアオノリ)採取は、地域における冬の風物詩となっています。

代表的な農作物は、わさび、^{ざっかん さくらば}雑柑、^{さくらば}桜葉などがあり、中でも桜葉は全国シェアの大部分を占めています。

那賀川と岩科川ではアユ・アマゴが毎年放流され、釣り客も多数訪れています。



出典: 松崎町観光協会パンフレット



出典: 松崎町HP

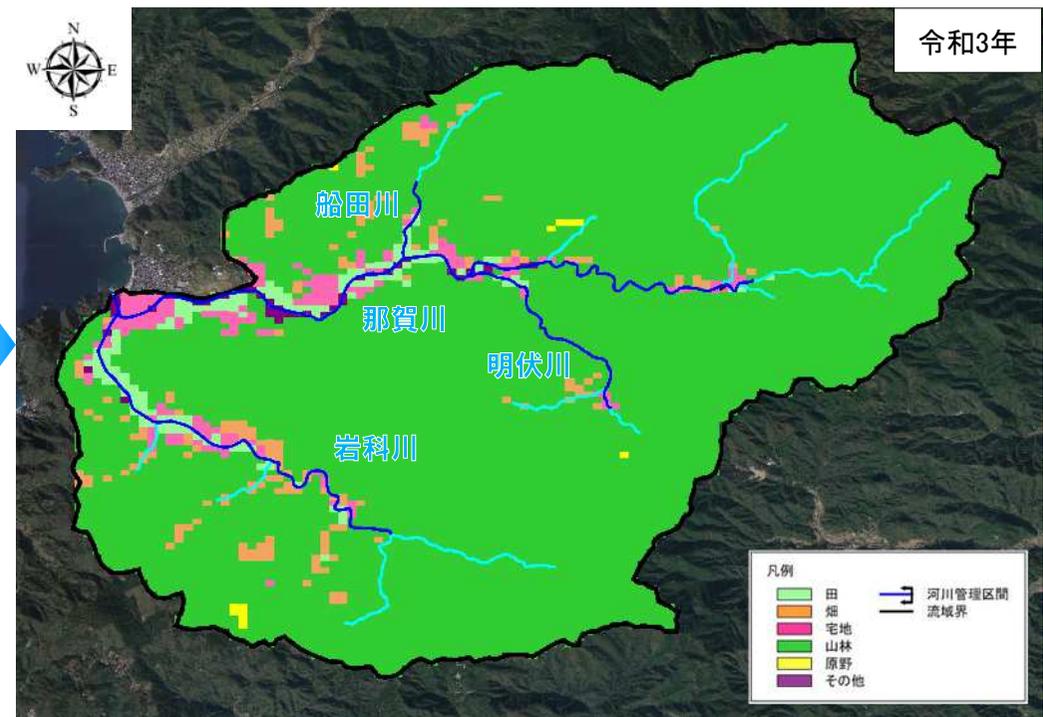
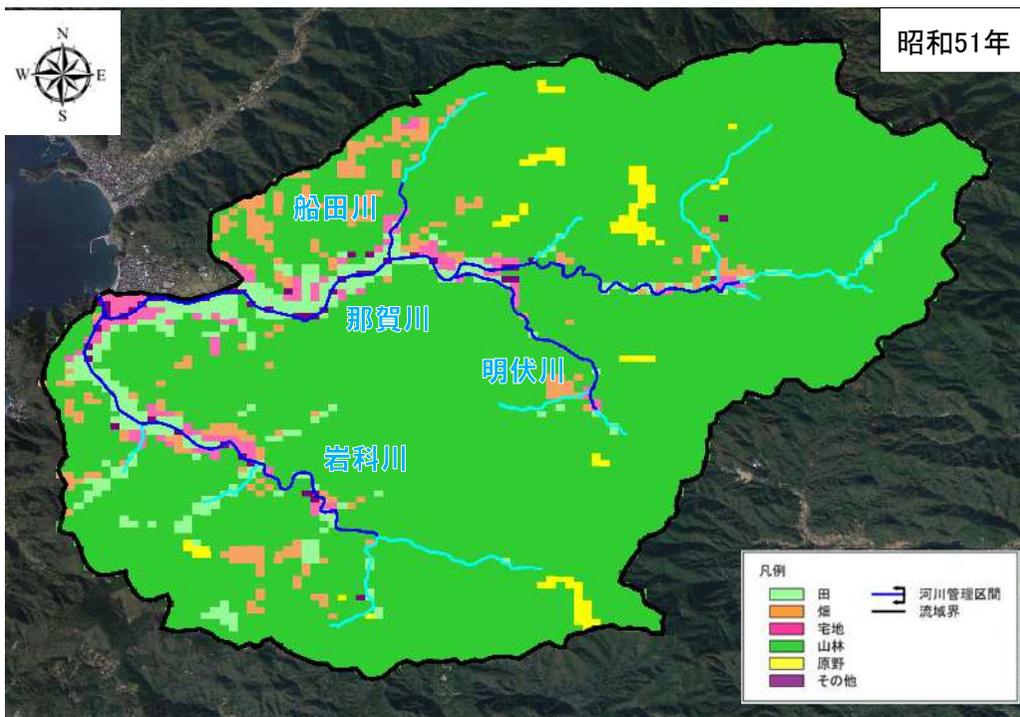
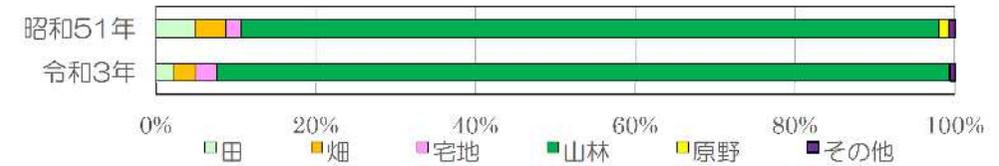
2.3 人口・産業・交通・土地利用 ～交通～

流域内には河口部の松崎港をはじめ、河口部に広がる市街地を軸に国道136号、県道下田松崎線などの基盤整備がなされています。



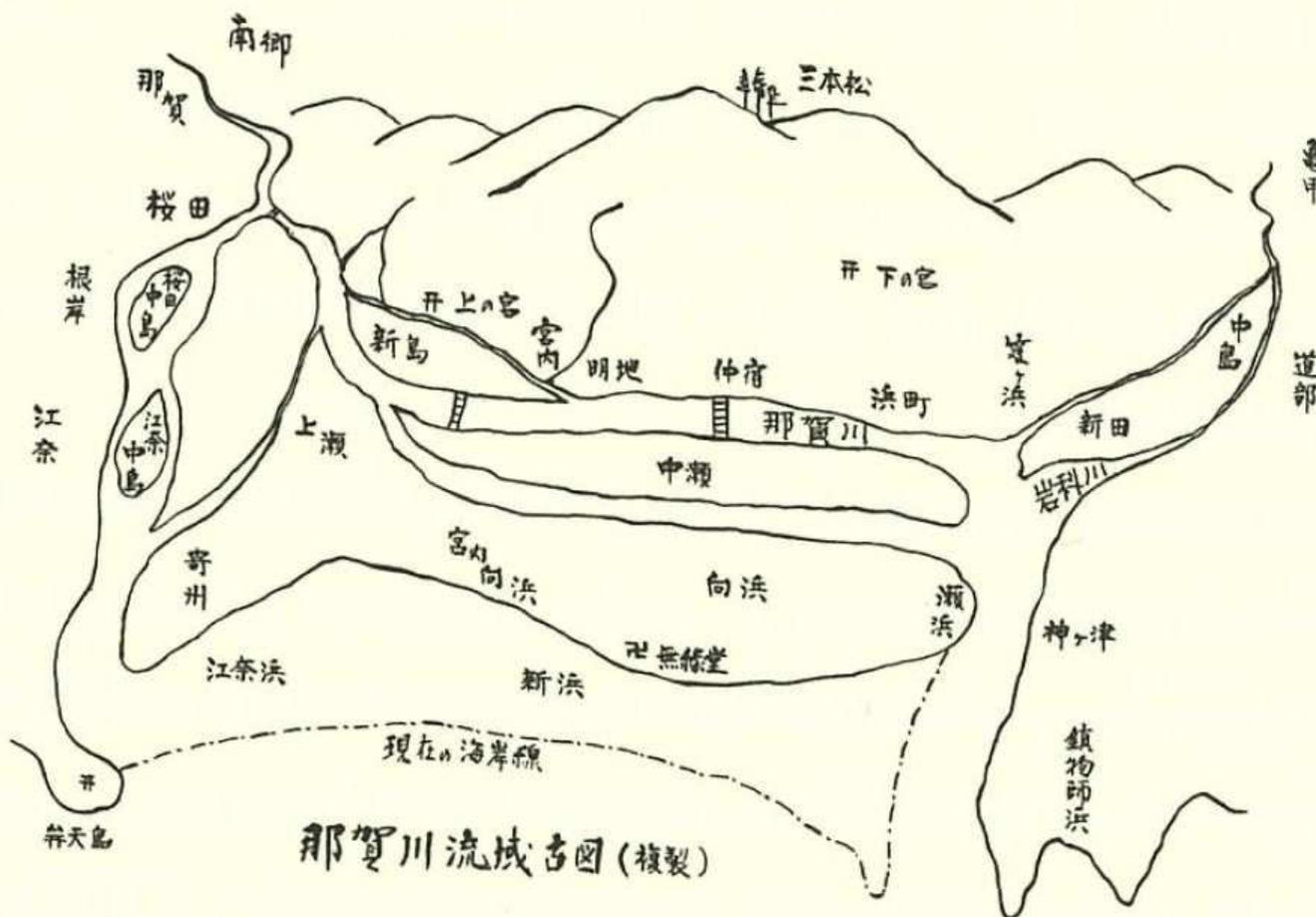
2.3 人口・産業・交通・土地利用 ～土地利用～

那賀川流域は、山林が約90%を占めています。
 中流部の河川沿いは水田や農地(約6%)として利用され、下流部に広がる平坦部に市街地(約2%)が形成されています。市街地面積は昭和51年からほとんど変化が見られません。
 山腹の棚田は耕作放棄により樹林化し、植生の遷移が進んでいます。
 山間部ではシカによる下層植生の食害もあり、流域の保水力低下、土壌流出などが懸念されています。



2.4 流域の歴史・文化 -歴史-

現在記録されている最も古い河川改修は、江戸時代『^{よだぜんろく}依田善六』により行われた那賀川の大改修です。また明治4年には、^{かわよけ}上瀬・中瀬間の那賀川川除堤防工事が完成しました。岩科川では、二川に分かれていた流路を、大正初期から大正5年にかけて統合する改修事業が行われました。



江戸時代の那賀川流域図

^{よだぜんろく}
依田善六

嘉永3年(1850年)七代目善六の元に生を受ける。

22歳で初代松崎戸長(以前の名主)に任命される。

養蚕業、松崎水力発電、駿河湾汽船、北海道開拓など多岐にわたり功績を残す。また自身の富を惜しげもなく社会福祉、地域発展のために寄付しており、地域への貢献は甚だしい。

2.4 流域の歴史・文化 -歴史-

那賀川流域には、古くから「なまこ壁」と呼ばれる様式の外壁を持つ家や蔵が多くありました。昭和30年代を境に大幅に減少し、今では那賀川下流部の松崎地区などに約190軒(平成27年度時点)が残っています。旧岩科学学校校舎は、「なまこ壁」を取り入れ、また欄干には鰻絵の名工「入江長八」によって『千羽鶴』が描かれるなど、国指定重要文化財に指定されています。
らんかん こてえ いりえちようはち

下流部の「ときわ大橋」には、「なまこ壁」の意匠が施され、歴史的まちなみに溶け込んだ景観を醸し出しています。松崎町は、平成25年10月にNPO法人「日本で最も美しい村連合」に加盟しました。



なまこ壁通り 出典:松崎町観光協会HP

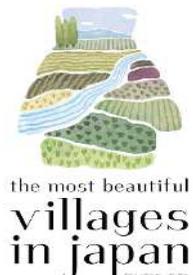


旧岩科学学校 出典:松崎町観光協会HP



ときわ大橋 出典:松崎町HP

「日本で最も美しい村連合」



この連合は、失ったら二度と取り戻せない日本の農山漁村の景観・文化を守りつつ、最も美しい村としての自立を目指す運動として、平成17年10月にスタートしました。

連合加盟により、「日本で最も美しい村」を宣言することで、自らの地域に誇りを持ち、将来にわたって美しい地域づくりを行い、地域の活性化と自立を住民自らの手で推進するための支援を受けます。なかでも、生活の営みにより形成されてきた景観・環境や地域の文化伝統を守り、これらを活用することで観光的付加価値を高め、地域の資源の保護と地域経済の発展に寄与することを目的としています。

2.5 治水事業の取組み ～既往洪水の概要～

那賀川流域では度重なる洪水被害を受けており、昭和51年の豪雨では堤防が決壊し、死者や床上浸水が発生するなど大規模な被害が発生しています。
 那賀川、岩科川の合流部では、流下能力不足区間において外水被害が発生しているほか、内水による道路や農地の冠水も発生しています。

【洪水被害】

過去の被害実績

出展：水害統計

水害発生年月日	河川名	水害原因	雨量 (mm)			被災数 (世帯数)		浸水面積 (ha)		
			日雨量 (月日)	時間雨量 確率規模	2時間雨量 確率規模	床下	床上	農地	宅地	浸水面積計
S51.5.19~7.21	岩科川	破堤・有堤部越水	466 (7.11)	69 W=1/18	133 W=1/100	63	97	30.90	11.00	41.90
	普通河川	破堤・有堤部越水				63	49	8.10	6.00	14.10
S53.6.7~7.5	岩科川	内水	186 (6.23)	46 W=1/3	68 W=1/3	3	0	0.00	0.10	0.10
	普通河川	内水				66	0	2.00	1.70	3.70
S53.7.4~7.17	普通河川	内水	90 (7.10)	76 W=1/30	104 W=1/27	12	0	0.00	0.30	0.30
S54.10.14~10.26	普通河川	内水	75 (10.19)	22 W=1/1	40 W=1/1	13	1	0.00	1.50	1.50
S55.4.8~4.14	普通河川	有堤部越水	66 (4.14)	14 W=1/1	18 W=1/1	1	0	0.00	0.10	0.10
S57.7.5~8.3	岩科川	無堤部溢水	130 (8.1)	30 W=1/1	59 W=1/2	1	0	0.00	0.10	0.10
	岩科川	無堤部溢水				1	0	0.00	0.10	0.10
	岩科川	無堤部溢水				2	0	0.00	0.10	0.10
	普通河川	内水				11	0	0.00	0.50	0.50
S57.9.10~9.13	普通河川	内水	146 (9.10)	36 W=1/2	50 W=1/2	5	1	0.00	0.40	0.40
S58.8.12~8.19	岩科川	無堤部溢水	299 (8.17)	40 W=1/2	75 W=1/5	16	0	0.00	0.10	0.10
	普通河川	無堤部溢水				1	0	0.00	0.10	0.10
	普通河川	内水				90	14	0.00	1.30	1.30
H 4.6.7~7.24	普通河川	内水	173 (7.14)	87 W=1/88	125 W=1/94	12	0	0.00	0.25	0.25
	普通河川	無堤部溢水				1	0	0.00	0.20	0.20
	準用河川	無堤部溢水				1	0	0.00	0.50	0.50
H5.11.10~11.15	岩科川	有堤部越水	86 (11.13)	25 W=1/1	47 W=1/2	24	6	10.00	4.00	14.00
	岩科川	有堤部越水				1	0	0.30	0.20	0.50
	岩科川	有堤部越水				3	0	0.00	0.40	0.40
	準用河川	有堤部越水				24	0	5.00	4.00	9.00
	普通河川	有堤部越水				6	0	5.00	3.00	8.00
	普通河川	有堤部越水				37	12	4.60	8.40	13.00
	普通河川	内水								
H17.8.24~8.26	岩科川	無堤部溢水	235 (8.25)	46 W=1/3	80 W=1/7	3	0	0.00	1.50	1.50
	那賀川	内水				35	7	0.00	5.90	5.90
H21.7.17~7.30	那賀川	有堤部越水	138.5 (7.17)	72.5 W=1/25	83.5 W=1/8	17	-	0.08	-	0.08



- 【被害の状況】
- ・死者2人、負傷 5人
 - ・全壊・半壊・流失家屋15戸
 - ・床上浸水166戸、床下浸水528戸
 - ・道路損壊31箇所
 - ・橋梁流失8箇所
 - ・堤防決壊7箇所
 - ・山(崖崩れ145箇所)
 - ・農地被害66ha



昭和51年7月
出典：松崎町HP



昭和51年7月
那賀川中流域 峰輪地区
資料：松崎町提供

平成20年6月



平成20.6月 那賀川
宮内地区(0k700)

平成21年7月



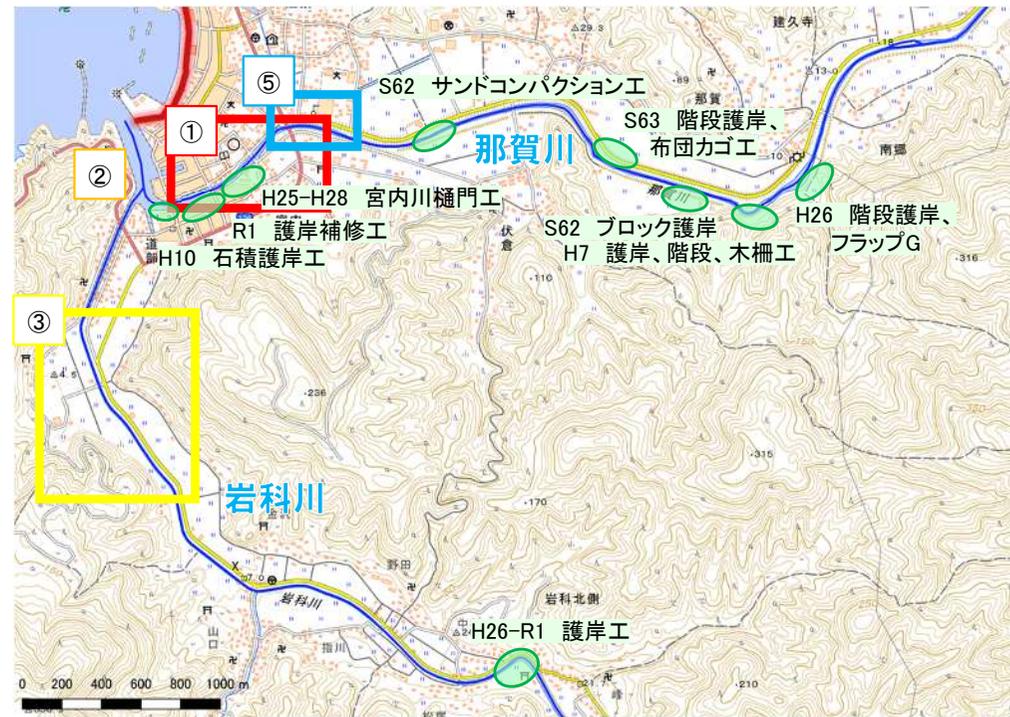
平成21.7月 岩科川
中村地区(2k800)

資料：松崎町提供

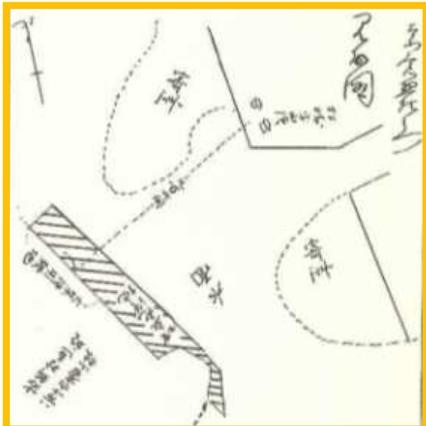
2.5 治水事業の取組み ～治水事業の沿革～

昭和51年の豪雨被害を受けて、災害復旧事業による護岸復旧や災害復旧災害特定関連事業による寄洲除去を行いました。近年では、各所で現計画に基づき整備を行っています。

改修年	改修内容
①明治4年度 (1871竣工)	那賀川河口部、上瀬・中瀬間の堤防工事
②明治28年度 (1895計画)	那賀川河口の左岸を埋立 延長約150m、最大幅30m
③大正5年度 (1916竣工)	耕地整理の一環として、岩科川の 道部地区(現)にて流路変更
④昭和15年度 (1941計画)	※改修箇所不明 助成事業あり (L=4,200m、事業費9,361千円)
⑤昭和51年度 (1976計画)	昭和51年7月の豪雨被害による 那賀川災害特定関連事業(宮の前橋周辺の寄洲除去) (L=250m、事業費6,252千円) 災害復旧事業(宮の前橋上流左岸の護岸復旧) (L=61m、事業費13,920千円)



②明治28年度



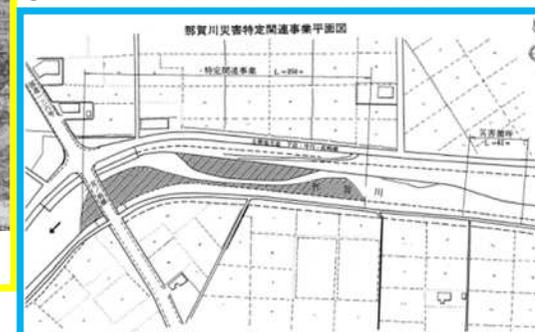
③大正5年度



岩科川の河川改修設計図



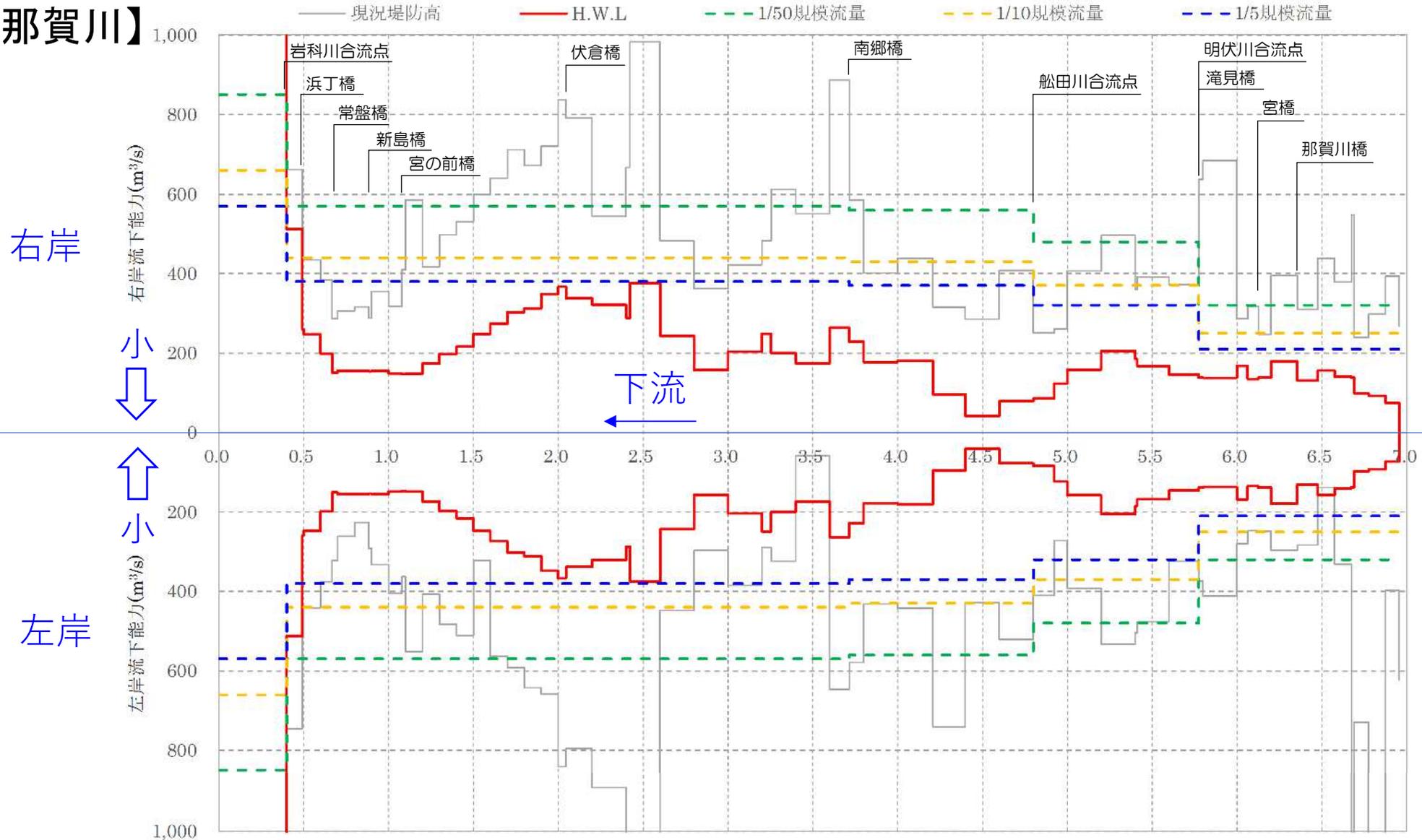
⑤昭和51年度 那賀川災害特定関連事業平面図



2.5 治水事業の取組み ～現況流下能力～

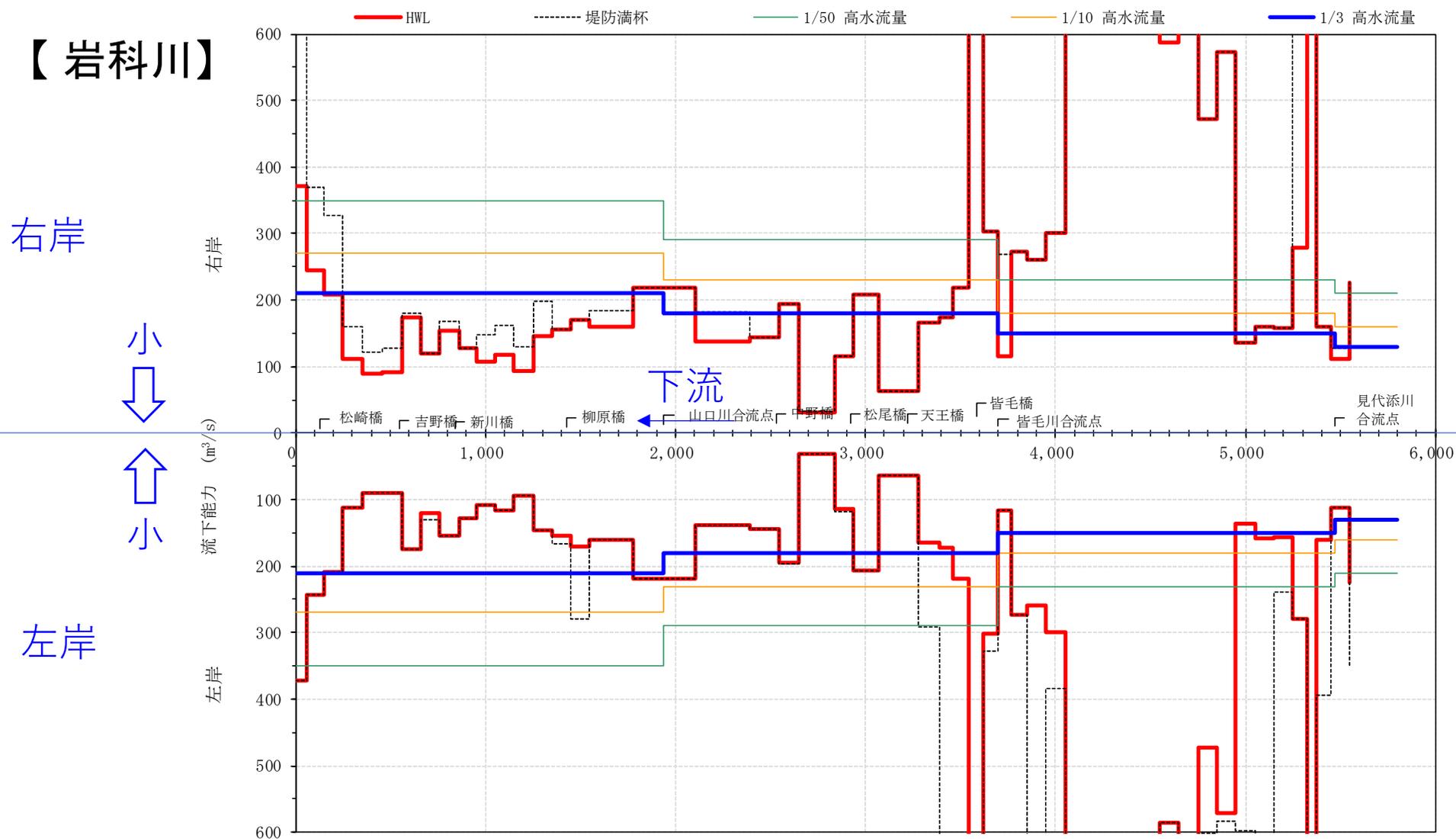
那賀川の現況流下能力は、山付き区間を除き、全般にわたって年超過確率1/5以下と評価されます。

【那賀川】



2. 5 治水事業の取組み - 現況流下能力 -

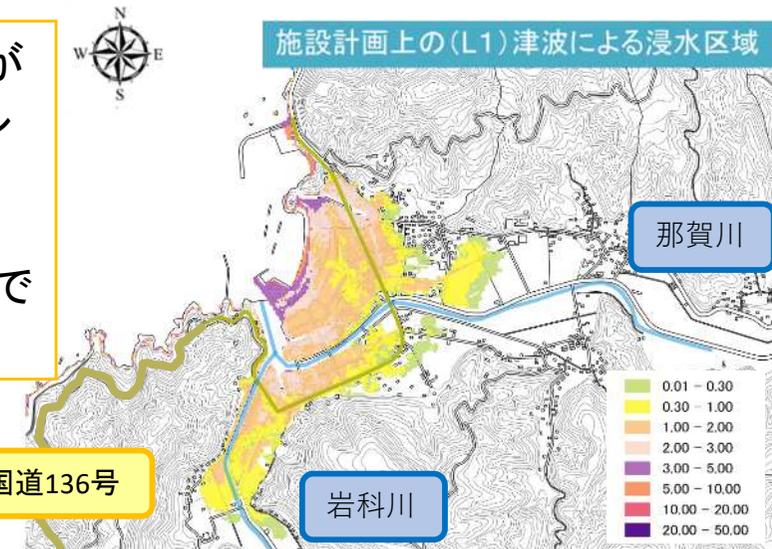
岩科川の現況流下能力も、全般にわたって年超過確率1/3~5以下と評価されます。



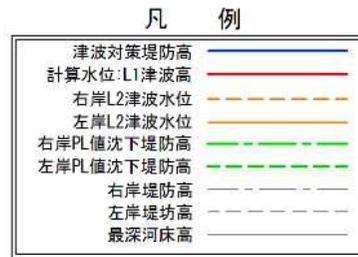
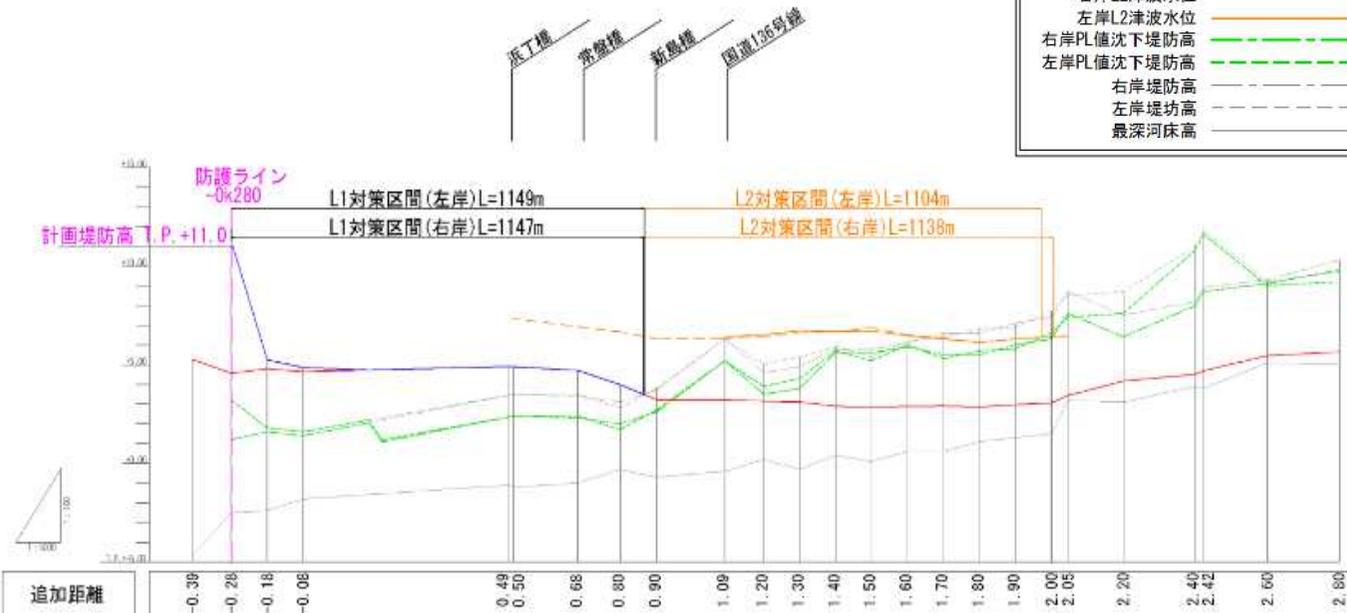
2.5 治水事業の取組み ～津波対策～

松崎港において海岸防潮堤(高潮)が整備されていますが、那賀川河口が開口部となっており、東日本大震災を踏まえた施設計画上の津波(レベル1津波)に対する**必要堤防高はT.P.+11.0m**となります。

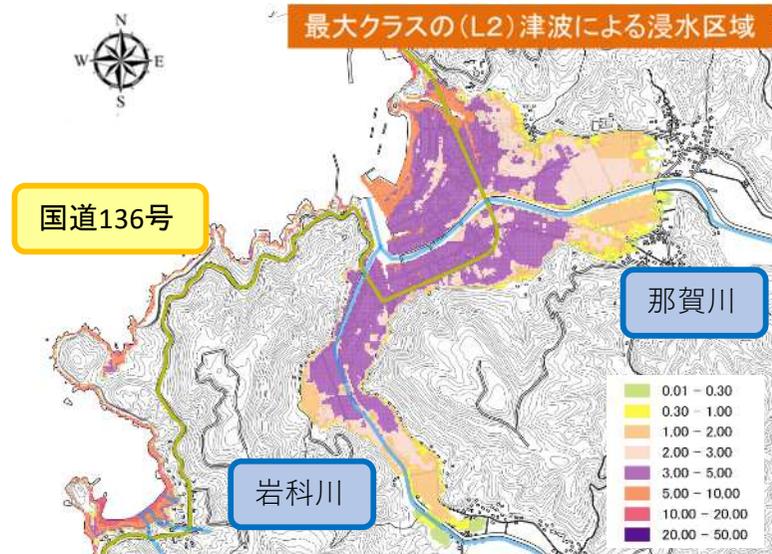
また、計画津波(レベル1津波)は、**河川内を約2.0km遡上**するとともに、最大クラスの津波(レベル2津波)では河川及び海岸堤防を越流し、沿岸部で**約70haの浸水**が想定されています。



	レベル1津波による被害	レベル2津波による被害
浸水面積 (ha)	37.55	70.82



レベル1津波による浸水区域



レベル2津波による浸水区域

津波遡上縦断面図

2.6 河川利用、地域との関わり ～河川空間利用～

町の特徴である「**花とロマンの里**」に示されるように「**ふるさと観光**」が特色となっています。

那賀川下流部の宮の前橋から大沢温泉にかけて約8kmに渡り、堤防に桜並木やあじさいや、しだれ柳等が整備され、町民の憩いの場所やレクリエーション等の場として利用されています。

那賀川流域には温泉施設が点在しており、中でも那賀川中流域の大沢温泉の歴史は古く、昔ながらの佇まいを残しており、観光客を集めています。

住民意識調査においても、那賀川の「好きな景色」「残しておきたい景色」に様々な河川空間が挙げられていることから、今後も良好な景観を保つことが求められます。



田んぼをつかった花畑 出典:松崎町HP



那賀川堤の桜 出典:松崎町HP



大沢温泉 山の家 出典:松崎町HP

住民アンケート

平成8年度の地域住民に対するアンケート調査
(平成8年度 二級河川稲生沢川水系ほか
河川環境管理基本計画策定調査業務住民意識調査)
那賀川の「好きな景色」「残しておきたい自然」への回答。

問.好きな景色

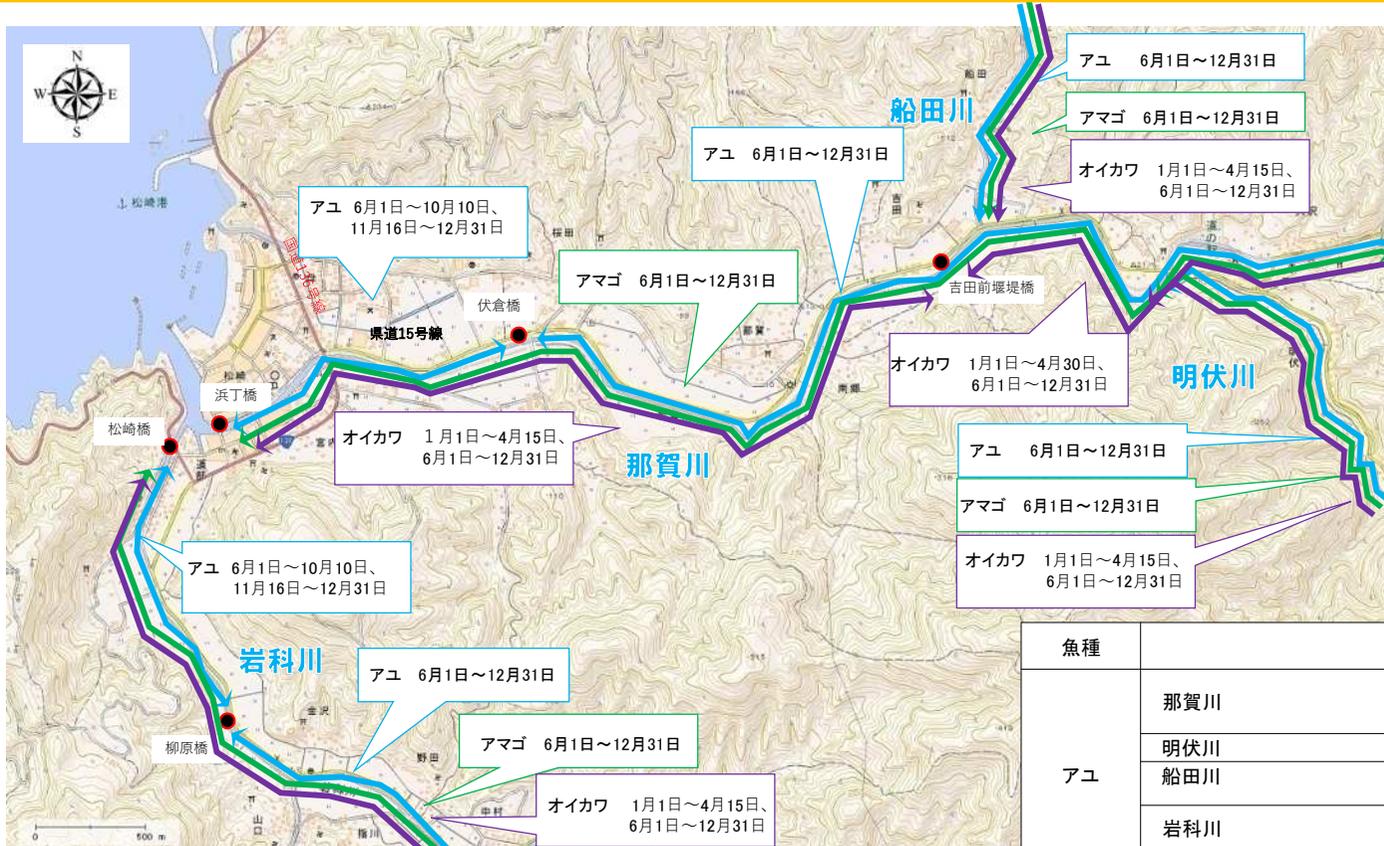
- ①大沢温泉周辺の景色 (10件) : 清流、桜、石
- ②川沿いの花々 (9件) : 菜の花、浜大根
- ③桜 (47件) : 主に、大沢温泉、伏倉橋上流、南郷土手など
- ④河口 (6件) その他多数。

問.残しておきたい自然

- ①河口～宮ノ前橋 みやのまえ : 清流を鯉などが泳いでいるのがすばらしい。
- ②伏倉橋～上流 ふしくらばし : コンクリートで固められていない風景。
桜並木。シラサギ等が見られる。
- ③建久寺付近 けんきゅうじ : 河岸にはヨシがあり、堤と道路には竹と
桜がある。(道路から眺めた景色が良い)
- ④旧中川小学校前の吊り橋から上流 きゅうなががわ : ホタルの生息地を是非残しておきたい。
土手の紫陽花、菜の花、雪柳等の草花

2.6 河川利用、地域との関わり ～河川空間利用～

那賀川水系では漁業権が設定されています。アユ・アマゴが放流され、春先には釣り客も多数訪れています。



那賀川流域における遊漁規則
(遊漁期・遊漁区域)

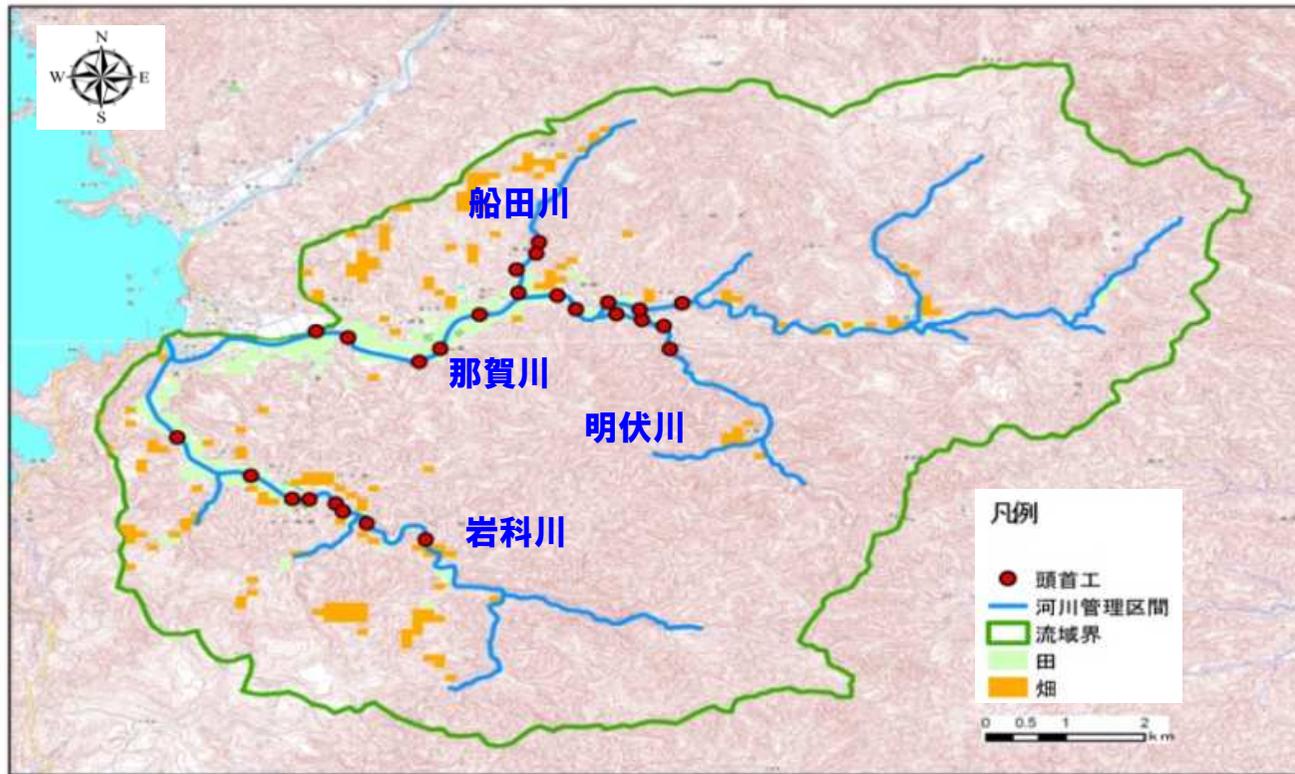
出典:松崎町HP

那賀川流域における遊漁規則(遊漁期・遊漁区域)

魚種	区域	期間
アユ	那賀川 伏倉橋から上流	6月1日～12月31日
	那賀川 伏倉橋上流端～浜丁橋上流端	6月1日～10月10日、11月16日～12月31日
	明伏川 全川	6月1日～12月31日
	船田川 全川	6月1日～12月31日
アマゴ	岩科川 柳原橋から上流	6月1日～12月31日
	岩科川 柳原橋上流端～松崎橋下流端	6月1日～10月10日、11月16日～12月31日
オイカワ	那賀川 吉田前堰堤より上流	1月1日～4月30日、6月1日～12月31日
	明伏川 全川	1月1日～4月15日、6月1日～12月31日
	船田川 全川	
	岩科川 松崎橋から上流	

2.6 河川利用、地域との関わり ～河川水の利用～

那賀川水系には、灌漑用水を目的とした36件の河川水の利用があります。



那賀川水系の取水施設位置

資料: 松崎町提供

施設番号	河川名	施設名	受益面積 (ha)	取水量 (m ³ /s)
1	那賀川	中島頭首工	22.00	0.29
2	"	山崎頭首工	24.00	0.28
3	"	鮎川頭首工	5.50	0.31
4	"	吉田前頭首工	20.00	0.22
5	"	南郷頭首工	9.00	0.16
6	"	湯ヶ原堰	2.00	0.04
7	"	上湯ヶ原堰	0.50	0.14
8	"	滝見堰	2.50	0.07
9	"	巖の鼻堰	1.20	0.08
10	"	大沢頭首工	2.50	0.27
11	"	北の沢取入口	0.70	0.21
12	"	続山取入口	1.70	0.04
13	"	中滝取入口	0.35	0.06
14	"	中村取入口	0.12	0.03
15	"	中湯ヶ原堰	0.80	0.05
16	船田川	無名頭首工	0.70	0.10
17	"	船田、日影頭首工	1.50	0.07
18	"	無名頭首工	0.60	0.11
19	"	船田、岸本頭首工	3.00	0.14
20	明伏川	和田河原頭首工	1.00	0.01
21	"	明伏頭首工	3.00	0.04
22	"	溝下堰	0.50	0.01
23	"	赤沢口堰	2.00	0.07
24	"	大舟山取入口	0.25	0.06
25	"	甲梁取水口	0.10	0.01
26	"	川音堰	0.35	0.01
27	"	宮ノ上堰	0.50	0.05
28	"	空見堰	0.14	0.01
29	岩科川	柳原頭首工	22.00	0.22
30	"	野田頭首工	14.00	0.20
31	"	松尾頭首工	9.00	0.14
32	"	中坪頭首工	4.00	0.06
33	"	関原田頭首工	0.70	0.06
34	"	六反田頭首工	0.60	0.01
35	"	桑原頭首工	0.10	0.04
36	"	立田頭首工	0.70	0.04

資料: 静岡県資料
(河川別慣行水利件一覧表)

那賀川水系の取水施設一覧



2.6 河川利用、地域との関わり ～地域との関わり～

那賀川水系では、リバーフレンドシップ制度を活用し、2団体が除草等の河川美化活動に取り組んでいます。那賀川中流部の南郷地区では、地域ボランティアによるホタルやトンボ類などの保全活動が行われています。

【リバーフレンドシップ制度】

市町名	河川名	団体名	締結年
松崎町	那賀川	松崎町大沢区	平成20年度
	船田川	松崎町船田区	平成20年度

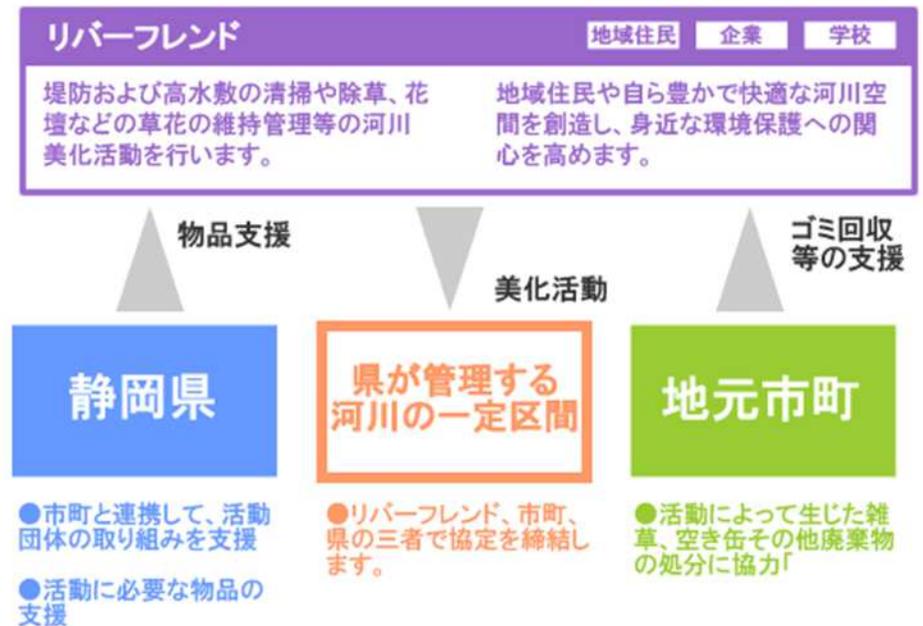


出典：しずおか地域づくり協働ナビHP

【地域ボランティア】



出典：松崎町HP

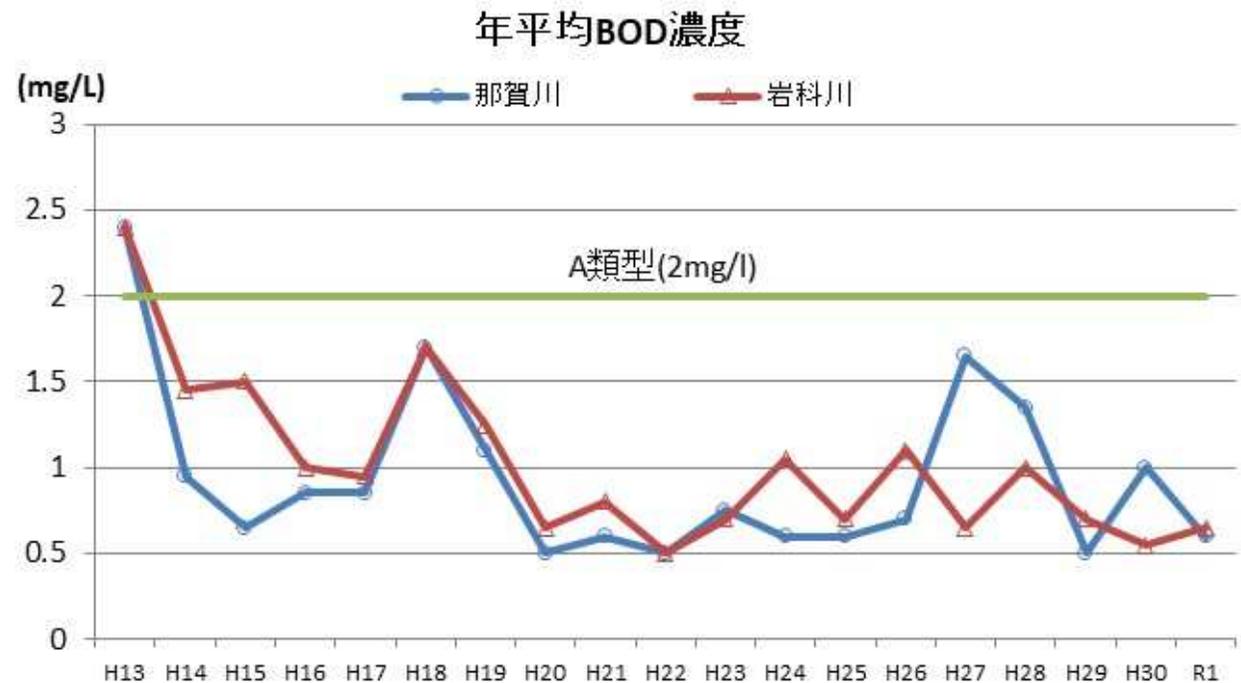


資料：静岡県河川砂防局HP

那賀川中流区間：南郷・鮎川地区
【松崎中学校ホタルボランティア】
 河道内の洲を整備し、ゲンジボタルやその餌となるカワニナの生育に適した環境を提供する活動を行っている。

2.7 河川環境 ～水質～

流域における近年の水質調査結果は、那賀川(宮の前橋)、岩科川(宇治橋)の両地点ともにBODの値が0.5～1.5mg/l程度であり、概ねA類型相当です。(基準:AA、A～Eの6段階(AAは1mg/L以下))
 住民意識調査においても那賀川の「好きな景色」「残しておきたい景色」に様々な箇所の河川空間が挙げられていることから、今後も良好な状況を保つことが求められています。



那賀川・岩科川における水質(BOD)の経年変化

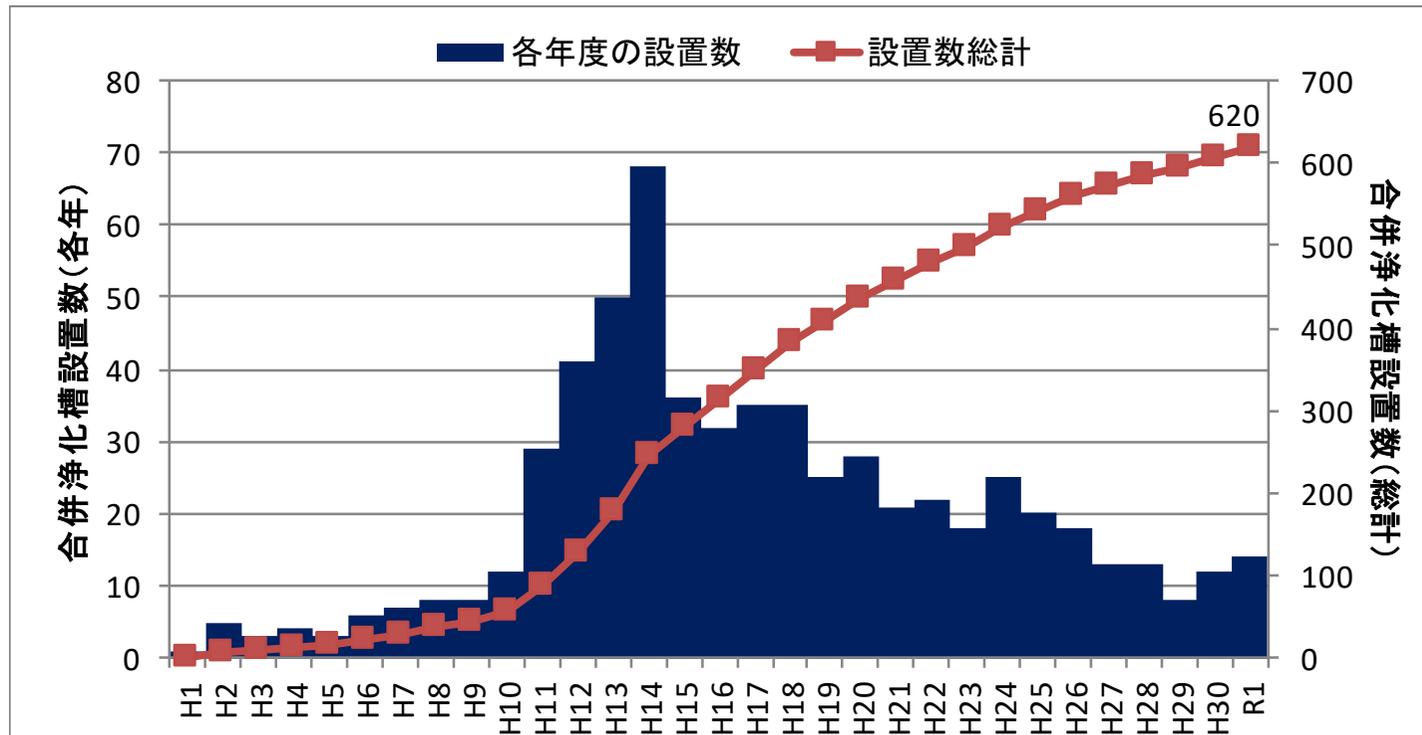
資料: 松崎町提供

2.7 河川環境 ～下水道整備状況～

那賀川と岩科川では公共下水道による整備は行われておらず、「生活排水処理基本計画(平成13年3月)」に基づき合併処理浄化槽の設置を進めています。令和元年度時点での普及率は約77%です。

	目標設置数	現況設置数	達成率
	令和4年度	令和元年度	
合併浄化槽設置数 (累計)	805基	620基	77%

資料：松崎町第5次総合計画（H25策定）



資料：松崎町提供

松崎町における合併浄化槽設置状況

2.7 河川環境 ～河川及びその周辺の自然環境～

那賀川やその支川では、ニホンウナギ、アユカケ(カマキリ)、キイロサナエなど環境省や静岡県版レッドリストに登録されている重要種が確認されています。また河口部の汽水域は特産の川のりが繁茂しています。



地域の活動

中流区間：南郷・鮎川地区
【松崎中学校ホタルボランティア】
河道内の洲を整備し、ゲンジボタルやその餌となるカワニナの生育に適した環境を保全する活動を行っている。



生物種名 凡例
重要種
外来種



2.7 河川環境 ～河川及びその周辺の自然環境～

ゴンズイ、セミホウボウ等の海水魚、オイカワ、ギンブナ等の淡水魚、ニホンウナギ、カマキリ等の降下回遊魚、ビリンゴ、ヨシノボリ類等の両側回遊魚が確認されています。

【水生生物・鳥類・昆虫類】

那賀川下流区間 (0.00k～2.0k)

海水の影響を強く受け、潮位変化がある。

【生息する生物の情報】

平成14,15年度現地調査(感潮区間)
平成26年度ヒアリング

- ・放流魚(コイ)
- ・漁業権対象種(アユ、アマゴ、オイカワ)
- ・川のり(スジアオノリ、ヒラアオノリ、ボウアオノリなど)
- ・ハゼ科魚類(タネハゼ、ヒナハゼ、ウロハゼ、ヌマチチブなど)
- ・海洋性魚類(ゴンズイ、シマイサキ、スズキなど)
- ・回遊性魚類(ニホンウナギ、カマキリ、ビリンゴなど)
- ・甲殻類(テッポウエビ、スジエビモドキ、モクズガニなど)
- ・貝類(ムシロガイ、ヒメヨウラクガイなど)
- ・鳥類(イワツバメ、宮の前橋橋桁に営巣)

生物種名 凡例
重要種
外来種



那賀川上流区間 (5.60k～10.55k)

粒径の大きな河床材料となり、溪流の趣きがある。

【生息する生物の情報】
平成12,26年度ヒアリング

- ・漁業権対象種(アマゴ)
- ・溪流性の生物(サワガニ)
- ・山林性の鳥類(ヤマガラ、シジュウカラなど)

那賀川中流区間 (2.00k～5.60k)

複数の河川横断構造物が設置されているが、魚道の整備はされていない。

【生息する生物の情報】

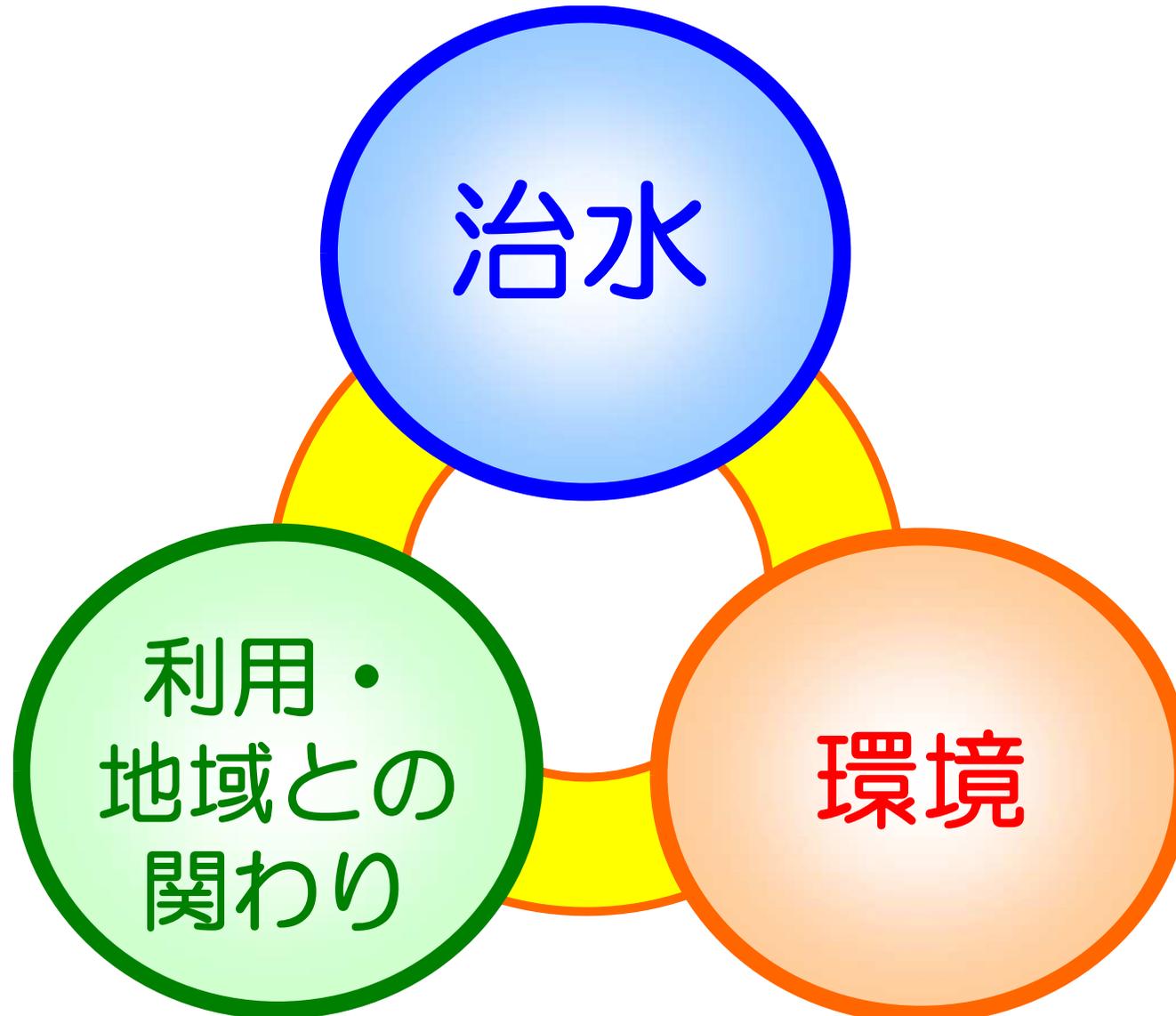
平成12,26年度ヒアリング

- ・漁業権対象種(アユ、アマゴ、オイカワ)
- ・回遊性魚類(ニホンウナギ、ボウズハゼ、スミウキゴリ、ヌマチチブなど)
- ・ホタル科(主にゲンジボタル)
- ・淡水性貝類(カワニナ)
- ・淡水性甲殻類(ヤマトヌマエビ、ミナミテナガエビ、アメリカザリガニなど)
- ・溪流性の生物(カジカガエル)
- ・鳥類(イワツバメ、伏倉橋橋桁に営巣)

3. 流域及び河川の課題の整理 (河川整備計画の検討に向けた着眼点)

3. 河川整備の目標と実施内容について

次に、「流域及び河川の現状」を踏まえ、「治水」、「利用・地域との関わり」、「環境」の3項目に分け、「流域及び河川の現状と課題の整理」をしていきます。



3. 河川整備の目標と実施内容について

治水

- 過去から災害復旧事業を中心とした河川改修が行われているものの、一定計画に基づく整備は実施されておらず、**流域全体として治水安全度が高いとは言えない**ことから流下能力を向上する必要がある。
- 下流部の市街地に資産が集中しており、**氾濫した場合の被害は甚大**である。また、那賀川と岩科川の合流点付近は地形的な要因や、河川の流下能力の不足により排水不良が生じやすく、内水被害が発生しているため、外水氾濫の対策だけでなく、内水氾濫の対策も必要である。
- **静岡県第4次地震被害想定に対する地震・津波対策**については、港湾管理者など関係機関と連携し、地域住民との合意形成を図りながら、対策を行う必要がある。
- 松崎町は観光地であり、津波や洪水による被害が想定されることから、災害が発生した時には住民とともに、**観光客の安全確保にも配慮**していく必要がある。

◆ 課題から導き出されるキーワード

- ① 人命の安全確保を最優先とした**ハード対策とソフト対策**の推進
- ② **浸水被害の軽減**に向け**地域の特性を考慮した河川の整備**
- ③ 河道流下能力の確保等による**適切な維持管理・治水施設整備**の継続
- ④ 河川管理者等の取組だけでなく、流域に関わる関係者が連携して水害対策に取り組む社会を構築する
「**流域治水**」の推進
- ⑤ **河川情報**の的確な**発信と周知の徹底**

3. 河川整備の目標と実施内容について

利用・地域との
関わり

- なまこ壁が特徴的な歴史的建築物や河川沿いの桜並木、田園風景など「花とロマンの里」に相応しい**景観と一体となった川づくり**を行う必要がある。
- アユ釣りや水遊びが盛んな中上流部の整備においては、**水辺に近づきやすくする工夫**が必要である。
- 特産品であり、冬の風物詩ともなっている河口域の**川のり採取が、未来へ引き継がれるような川づくり**が必要である。
- ホテルの保全活動や、リバーフレンドシップ制度を活用した河川美化活動など、**川に密着した取り組みが流域全体で継続されていくように支援**する必要がある。

◆ 課題から導き出されるキーワード

- ①河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持を図るため、**河川の流況等の把握**
- ②良好な水環境の維持・回復、魅力的な河川空間の形成を図るため、**地域住民や関係機関と連携**
- ③地域住民とともに地域の個性を活かした川づくりを推進し、**地域の活発な取組を継続して支援**

3. 河川整備の目標と実施内容について

環境

- 合併処理浄化槽の普及に伴い水質は良好であり、今後も普及促進に努める必要がある。
- ニホンウナギ、カマキリ(アユカケ)など重要種や、地域の観光資源と関わりの深い、アユや川のりなど多様な動植物が生息・生育しており、これら**生物の多様性を確保するための環境を保全・創出していく必要がある。**

◆ 課題から導き出されるキーワード

- ① **住民や有識者等との連携**によって、流域に生息している**動植物の生息・生育・繁殖環境の維持・保全**
- ② 河川環境への負荷軽減策や活発な住民活動が流域全体に広がるよう連携や支援を推進し、**良好な地域のネットワークやコミュニティの強化**
- ③ 特色ある歴史・文化など、川に関する情報を幅広く提供し、**地域住民などの河川に対する意識向上**